

講義名	教養特講（世界の中の日本）		
科目区分	教養科目		
担当教員	藤原 喜美子		
開講期・曜日・時限	前期 木曜日 2時限	授業形態	
履修開始年次	1年生	単位数	2
		備考	

<b>主題と概要</b>			
<p>この授業の目的は、世界の中における日本の特質を捉えるために、様々な視野で検討することにある。今、世界はめまぐるしく動き、地球規模で展開している。そこで、この授業では、特に日本が位置するアジア地域に注目し、アジアの国の特色を取り上げながら、日本との関連性を紹介する。また、新聞記事を紹介しながら、今の日本に起きている事柄や日本の特性を検討していきたい。</p>			

<b>到達目標</b>			
<p>授業で紹介した国の特性(歴史、文化など)を理解した上で、日本がどのような国であるのか、自分の言葉で表現できるようにする。</p>			

<b>提出課題</b>			
<p>配布資料で学んだことや感想・考えについて、毎回、レポートとして提出してもらう。      代替授業（遠隔授業）の期間中は、RYUKA Portalの教務掲示でレポート課題を連絡する。各回、レポート（感想文や授業の確認内容）をRYUKA Portalから提出してもらう。      今後、教室で授業が開始された時には、毎回、授業内にレポート課題を提出してもらう。</p>			

<b>課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック</b>			
<p>授業内容に関する感想文は、提出後に授業などで、日本の地域性を考えるための一つの事例として紹介する。</p>			

<b>評価の基準</b>			
<p>毎回の講義で記入してもらう課題のレポート（平常点）により評価する。</p>			

<b>履修にあたっての注意・助言他</b>			
<p>教室内での私語など、受講態度が好ましくない者には退室を求めることがある。</p>			

<b>教科書</b>
・ 使用しない。

<b>プリント資料及び参考文献</b>
<p>&lt;プリント資料&gt;          各回 プリント資料を配布する。          &lt;参考文献&gt;          適宜紹介する。</p>

<b>授業計画</b>	
回	授業計画
1	世界の中の日本とは
2	アジアの中の日本 「ブータン」
3	アジアの中の日本 「インド」
4	アジアの中の日本 「タイ」
5	アジアの中の日本 「日本」日本の国立公園：伊勢志摩
6	アジアの中の日本 「日本」世界文化遺産：富士山
7	アジアの中の日本 「日本」世界文化遺産：石見銀山遺跡
8	アジアの中の日本 「日本」無形文化遺産：和食
9	アジアの中の日本 「日本」無形文化遺産：和紙
10	アジアの中の日本 「日本」日本遺産を知る
11	アジアの中の日本 「日本」日本遺産：日本茶（京都の宇治茶）
12	アジアの中の日本 「日本」日本遺産：飛騨匠の技
13	アジアの中の日本 「日本」日本の伝統的工芸品：堺打刃物
14	アジアの中の日本 「日本」オリンピック・パラリンピック
15	アジアの中の日本 「日本」まとめ

<b>授業形態（アクティブ・ラーニング）</b>	
ア	PBL（課題解決型学習）
イ	反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ	ディスカッション、ディベート
エ	グループワーク
オ	プレゼンテーション
カ	実習、フィールドワーク

<b>準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間</b>	
予習	次回の授業範囲の準備学習として、シラバスの授業計画に記してある授業のテーマを確認し、キーワードなどを書きとどめておく。各回の講義の最後でも、翌週の授業の内容を紹介する。また、そのテーマについて、翌週までに興味のある事柄を1つ調べる（約1時間）。
復習	授業終了時、その日の授業内容を確認しながら、内容のまとめや内容に関わる感想文を出席カードに記入する。また、各自で、その日の授業の要点（キーワードやポイント）等を確認する（約1時間）。

<b>双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述</b>	
<p>この授業は、プリントを用いて進める。また、毎回、受講生が各自で自らの考えを整理し、用紙に記入する時間を設ける。</p>	

<b>実務経験の有無及び活用</b>	
<p>実務経験あり。授業担当者は民俗学（生活文化史）に関わる現地調査や文化財保護業務の実務経験を有しており、その実務経験を活用し、地域の特性を紹介しながら授業を行う。</p>	

<b>備考</b>	
<p>日本について、まずは各自の身近な事柄から関心を持ってもらいたい。そして、「各自が考える日本の魅力」を探る機会にしてもらいたいと思う。</p>	